『ファウスト』脚注の試み（23）

NACHT・OFFEN FELD
夜、広き野（Vers 4399－4404）

渡 辺 信 生

この場もすでに „Urfaust" にあり、1772－1775年に書かれた。Vers 4401だけは、1808年に初めて印刷されたときに書き換えられた。この場の気分もテンポも Shakespeare の „Macbeth" の魔女の場に、そして雰囲気とリズムに関しては Gottfried August Bürger（1747－94）のバラード „Lenore"（1773）に、それぞれヒントを得ている。この場の極めてドラマチックなエピソードは、多数の挿絵画家の興味を唆った。Alexandre Stapfer（1802－92）の „Faust" 仏語訳（1828）のために画いた、Eugène Delacroix（1798－1863）の劇的なリトグラフは、特にゲーテに深い感銘を与えた。

Eckermannは次のように報告している（am 29. November 1826）。„Herr Deracroix, sagte Goethe, ist ein großes Talent, das gerade am Faust die rechte Nahrung gefunden hat. Die Franzosen tadeln an ihm seine Wildheit, allein hier kommt sie ihm recht zu statten. Er wird, wie man hofft, den ganzen Faust durchführen, und ich freue mich besonders auf die Hexenküche und die Brockenszenen. Man sieht ihm an, daß er das Leben recht durchgemacht hat, wozu ihm denn eine Stadt wie Paris die beste Gelegenheit geboten."（Lange）.

多くの注釈書のように、ここが獄中の嬰児殺しの母親が、翌朝処刑されることになっている場所とする解説は、問題になり得ない。なぜなら処刑は市内の Marktplatz で行われるからである。むしろここで問題になっているのは、幻の、幻想的な出来事なのである。この出来事は勿論 Margarete の処刑を暗示してはいるが、明らかに „Walpurgisnacht" の経過と、Paralipomenon 50 の刑場のヴィジョン（„Hochgerichtserscheinung"）に関連がある。この魔女たちの行為の宗教的な性格は、この出来事に相応しいものである。（Schöne）.

この場の 6 行については、韻律論的に見て Vers なのか Prosa なのかという問題があり、どちらかに決めるのは困難である。というのはこれは自由な Hebung と Senkung の数を持つ、韻を踏まない行であり、自由韻律とも散文と

もとることができるからである。勿論個々の点に於ては、韻律論上の規則は完全に処理されている。例えば 4 Kretiker (—∨—) から成り立っているように見える V. 4401に於て：

Schweben auf, schweben ab, neigen sich, beugen sich.

V. 4403 は再び 2 Amphibrachen (∨—∨) から、成り立っていると理解される：

Sie streuen und weihen.

ここでは恐らく前の場と同じように、リズムのある Prosa ととるのが一番よいだろう。Erich Schmidt は Weimarer Ausgabe のこれらの行を、言うまでもなく Verse として数えた。その後この場はすべての版に於て、Vers として数えられることになった。(Ciupke).

この場は Sturm und Drang の Drama らしい短さの点で、„Urfaust" の „Auerbachs Keller" と „Straße" の間にある、脚色されたエピグラムで、あらゆる点で不必要な 4 Verse の „Landstraße" の場を思い出させる。„Nacht, offen Feld" の方はこれとは逆に、前の場と次の場に関係がある。即ち、この場は „Auf und davon!" につながっていて、同時に迫り来る処刑と Faust の救出の試みを示している。(Arens).

Offen Feld —— Offen(es) Feld.

4399. weben —— wirken, thätig, lebendig sein. auch die bedeutung „schweben" mischt sich ein. vgl. V.1119. (Grimm). ältestes Gewerbe der Menschen wie schaffen (eig. Holz schaben) allgemeine Ausdrücke für jede emsige Tätigkeit. (Trend.). die dort —— unbestimmte Bezeichnung des „luftigen Gesindels" (Bürgers Lenore), das um Galgen und Rad der Richtstätte seinen nächtlichen Spuk treibt. (Trend.).

Rabenstein —— 石の壁で出来た処刑場で市外にある。絞首刑や車裂きの刑に処せられた死体に、烏が集まるのでこのように呼ばれた。こうした死体の腐敗で、町は汚染されるだろう。従ってこのような処刑は野外で行わねばならない。他方より名誉ある斬首は、処刑のあと刑死者は埋葬されるので、市壁の内側で行うことができる。処刑場は常に不気味な場所だった。特に夜は魔女、不純な霊たち、刑死者たちの魂の逢引の場所として、気味悪がられた。(Arens).

4400. Weiß nicht —— (Ich) weiß nicht. sie —— 前行の die dort. kochen —— 災い、殺人、裏切りなどを作り出す、即ち、毒を混ぜるという悪い裏の意

味に於ける einrühren, einbrocken, brauen. (Schröer). Mephisto は処刑された罪人の死体の各部分、または血を煮込んで霊液を作っているのは魔女である、ということを答えたくないのである。(Endres). Shakespease の魔女たちも kochen する。(Düntzer). schaffen —— südwestdeutsch=arbeiten, besorgen, leisten. vgl. V. 3083. (Fischer).

4401. この行の主語は前行の sie. Mephisto の返事とは逆に Faust には、Auf- und abschweben, sich bücken という動きしか目に入らない。neigen と beugen は同義である。Faust が気付いたのは、状況に相応しくぼんやりしたものである。(Arens). neigen sich, beugen sich —— wie der Priester am Altar. (Königs).

4402. Eine Hexenzunft —— (Sie sind) eine Hexenzunft. Zunft —— Genossenschaft. (Schröer). 死刑の執行とその場所から、どんな魔力が生ずるのか、それは Paralipomenon 50 の „Hochgerichtserscheinung" に於て形作られている。ここで暗示されている魔女たちは、前の場の „Mephisto" のように根源的な性質のもので、„Walpurgisnacht" の魔女たちではなく、むしろ „Macbeth" の魔女たちと同一視することが出来る。(Arens).

4403. streuen und weihen —— 教会のミサでは香煙を撒き、参加者に聖水をかける。(Königs). 勿論ここでは瀆神的な意味である。(Heinemann). 霊液を煮て、薬草を鍋の中にばら撒き、祝福する身振りをしながら、鍋に不可思議な呪文を唱える。(Witkowski). Faust が streuen und weihen だと思った魔女たちの動きは、Bürger の Lenore の一場面と関連がある：„Sieh da! sieh da! am Hochgericht／Tanzt um des Rades Spindel,／Halb sichtbarlich bei Mondenlicht,／Ein luftiges Gesindel." (Gaier).

4404. Vorbei! Vorbei! —— この Mephisto の叫びは(またしても重複)、V.11601 で „vorbei" に与えている „Es ist so gut, als wär' es nicht gewesen." という意味と恐らく同じであろう。30 語にすぎないこの短い場は、殊のほか印象深いものである。というのも不気味な場所の近くの夜の漠然とした印象を、模倣し難いほど造形しているからである。この漠然とした印象を表わすには、一語では明白でありすぎる。従って多くの重複した形、従ってまたぼんやりした形：weben — schweben — schweben, それに -eigen, -eugen, -euen, -eihen という揺れ動く響きが相応しい。„Walpurgisnacht" の Wechselgesang に於ても、eu- と ei- の響きが極めて近縁の関係になっている：„Sind das Molche durchs Gesträuche?／Lange Beine, dicke Bäuche!...

Und die Mäuse／Tausendfärbig, scharenweise..." (V. 3892f., 3900f.). (Arens).

KERKER

牢獄 (Vers 4405－4612)

„Urfaust" ではまだ明らかに飾り気のない、どぎつい散文であったが、疑いもなく „Faust" の最も古い部分に属する。もしかすると1771年8月にフランクフルトで投獄されて、翌年1月に公開処刑された、嬰児殺しの母親 Susanna Margaretha Brandt に対する裁判の直接の印象の下で書かれたのかも知れない。1790年印刷の Fragment には欠けている。

ゲーテが „Faust" の仕事に再び取りかかったとき、1798年5月5日のシラー宛書簡の中で説明したことは、特にこの Kerker の場の詩行の草稿のことと見なされている：„Einige tragische Szenen waren in Prosa[1] geschrieben, sie sind durch ihre Natürlichkeit und Stärke, in Verhältnis gegen das andere, ganz unerträglich. Ich suche sie deswegen gegenwärtig in Reime zu bringen, da denn die Idee wie durch einen Flor durchscheint, die unmittelbare Wirkung des ungeheuern Stoffes aber gedämpft wird." [1]„Urfaust" の散文の場は Auerbachs Keller, Trüber Tag・Feld, Kerker. このうち悲劇は後者の二つ。

美的原則とゲーテの「古典主義」時代の判断の基準に基づくこのような判断を、解釈者や注解者たちは大抵是認してきた。だが美的感覚が移り変る間に鍛えられた後世の読者は、(„Urfaust" と „Faust I" を) 比較しながら読むうちに、獲得したものばかりでなく、失ったものも認めることだろう。(Schöne).

Gretchen の詩行は (最初の彼女の言葉とは異なり)、混乱したリズムで書かれている。モティーフ全体は飛躍が多く、彼女の心の状態同様混乱している。しかしそこには全く純粋な発展の線が一本貫かれている。即ち、Gretchen は益々自分自身になって行く。彼女は Mephisto のそばにも拘らず祈ることが出来る。そしてそれによって彼女は、Mephisto と Faust を遠ざける。Mephisto は最後に地上の裁きについて語る (V. 4611)。Gretchen は天上の裁きについてしか語らない。Faust は二人の間で沈黙したままである。Gretchen の発展と決断は、人間的なものが終り、神的なものが始まる境界に通じている。そしてここで我々は、„Faust" は天上で始まった Weltspiel であることを思い出させられる。この

人間の領域で起ったことは、第二部の終りの Vorklang である上からの声によって、同時に神的な領域からも説明される。この場のこの天上の声が暗示しているにすぎないあの領域、即ち、第二部の終りでは、Gretchen の姿が変容して現われるのである。(Trunz).

この場の詩行の特色は、何よりもゲーテによって作られた Reime によって生じている。なぜならリズムに関しては（Hebung と Senkung の数の点で）これらの詩行は、大体自由に形作られているからである。それについては勿論 Faust は、大抵規則的に強弱の交替する詩行で、従って規則正しい詩行で語っているということを、制限つきで認めねばならない。例外は V. 4409—11, —24, —81, —83, —98, 4518, —63. V. 4460 は無韻。

Margarete の詩行はこれに反して、殆ど一貫して不規則である。例えば彼女の Lied も自由詩行で形作られている（V. 4412—20)。そして部分的には全く無韻の詩行を示している(V. 4412 と—14)。極めて短い einhebig（z.B.V. 4494) から fünfhebig（z.B.V. 4501）まで変化する Margarete の詩行の調子は、彼女の考えの飛躍ぶりと、気分の唐突な変化を示すものである。これはもはや讀者もしくは観客が、以前の Gretchen の場で知っているのと同じ Gretchen ではなくて、狂気と絶望、不安と動揺に苛まれている Gretchen であることは明白である。最後にこの場の終りに近づく Margarete の話に於ては、脚韻、即ち、残っていた最後の韻律上の規則も意味を失う。それによって同様に Margarete の絶望が表現されているのであるが。彼女が逃亡しない（V. 4544）と決心する前は、彼女の103 Verse の中の4 Verse だけが reimlos(V. 4474, —93, 4528, —40) だったのが、V. 4544 以後は 56 Verse 中で 8 Verse（V. 4556f., —60, —62, —76, —82, —95, 4612）と明らかに増加している。恰も韻を踏んだ詩行の緩やかな放棄によっても、Gretchen の Faust からの救済が表現されたことになっているかのようである。こういうわけで結局第一部の最後の詩行、Margarete の Faust への絶望した叫び —— Heinrich! Heinrich! —— も返事もなく、Reim もないままである。(Ciupke).

Kerker —— Faust が隠喩的に誇張して、自分と Gretchen の部屋について言ったことが、この場で現実になる。vgl. V. 398, 1194, 2694. (Gaier).

4405. Mich faßt ein längst entwohnter Schauer —— ein Schauer, dessen ich mich längst entwöhnt hatte. entwohnen —— (ahd. intwonên, mhd. entwonen) =aus der Gewohnheit kommen. entwöhnen は entwohnen の Faktitiv. (Fischer). 同じような表現は V. 29, 472ff. (Arens).

4406. Der Menschheit ganzer Jammer —— Der ganze Jammer der Menschheit = das Weh, das Menschen treffen kann, das mit dem Menschsein unlöslich verbunden ist, in seinem ganzen Umfang. (Fischer). Menschheit —— gesamtheit der menschen, wie mhd. mennescheit. (Grimm). 従ってここで „was der ganzen Menschheit zugeteilt ist" (V. 1770) が Faust に与えられることになる。(Buchwald).

4407f. sie —— Gretchen. „wohnt" は恐ろしいほど不適当な印象を与える。Gretchen の以前の住居、あの小さい清潔な部屋と、Faust の熱烈に崇拝する感情への想いを、ゲーテはこの2行によって喚起しようとしたのかも知れない。(Arens). ihr Verbrechen —— この2行は1798年に書かれたもので、誘惑した男だけを非難攻撃して、「責任なしに犯罪へと狩り立てられた」少女を非難しない点で、Sturm und Drang の詩人たちの態度を最も強く反映している。こうした少女は誘惑した男の純粋な犠牲であり、頻繁に生じた私生児の殺害は、社会的な苦境の殆ど当り前の結果と見なされていたのである。こういうわけで18世紀には、嬰児殺しの一層寛大な処罰を求める運動が起った。もし到る所で嬰児殺しに関わらざるを得なかったほど、嬰児殺しが頻繁でなかったなら、このような運動は疑いもなく決して起らなかったであろう。こうした特別な意味に於ける嬰児殺しは、結局マンハイムから、次のような懸賞問題が出されるほど、切迫した問題だったのである：„Welches sind die besten ausführbaren Mittel, dem Kindermord abzuhelfen, ohne die Unzucht zu begünstigen?"

1777—79年だけでも、マンハイム宮廷裁判所の刑務所の記録は、26例の嬰児殺しを書き留めていた。プロイセンに関しては、1798年にプロイセンのすべての州で係争中の刑事訴訟のリストは、84例の嬰児殺しを挙げていて、死刑が求刑されたのは、2例だけだということが確認されている。このように見てくると、絶望した未婚の母のテーマを思いつくのに、若いゲーテは実際、故郷の町に於ける嬰児殺しの裁判を必要とはしなかったということは、明らかなことであろう。(Arens). ein guter Wahn —— Gretchens unbedingte Liebe entgegen allen bürgerlichen Konventionen. (Lange). vgl. V. 3585f. (Witkowski).

4409f. Du —— Faust 自身。zaudern, fürchten, zagen, zögern という四重もの表現は、先へ延ばそうとする内なる意志の動詞的表現と解釈されよう。所で Mephisto は V.4598 で Faust の言葉 (Zagen, Zaudern) をまた取り上げて

いる。V.4410 は Gretchen との内面的な関係に対する、Faust の唯一明白な発言である。(Arens).

4411. Fort! —— Vorwärts! 行こう！ „Urfaust" では Auf! = als Ausdruck spontanen Handelns in ausdrückl Opposition zu (feigem) Zögern u Zogen. (GWb). heran|zögern —— Sturm und Drang の言葉に属する他動詞で、„zieht durch seine Langsamkeit...heran" の意。(Gaier).

4411＋ Es —— 非人称。中で歌う声がする。

4412－20. Machandelbaum (Wacholder) のメルヘンに歌が一つ出ている。それを Gretchen がここで少し変えて歌っている。最初の 2 行は自分と自分の子供のことである。それからこの子供は、メルヘンの子供と合体する。母親は自分が殺した子供の肉を料理する。それを父親が食べる。妹はその骨を集めて Machandelbaum の下に埋める。するとその骨は、きれいな一羽の鳥になって飛んで行って、あとで母親の悪業の復讐者になる。そして最後にまた殺された男の子に戻る。このメルヘンから取られたこの歌には、Gretchen の贖罪への憧れ、殺した子供を生き返らせたいという憧れが語られている。(Trunz).

ハンブルクの画家であり作家でもあった Philipp Otto Runge (1770－1810) によって、Pommern 地方の方言で書き留められたこのメルヘンは、Achim von Arnim によって発行された „Zeitung und Einsiedler" の1808年 8 月 9 日と12日の版に初めて登場した。すでに1808年 5 月に Jacob Grimm はこのメルヘンの要約を、友人の法律家 Friedrich Karl von Savigny に送っていた。このテキストは1812年 Nr.47として、Brüder Grimm の „Kinder und Hausmärchen" に取り入れられた。(Lange).

この Machandelboom のメルヘンを、ゲーテは1774年にはもう知っていた。vgl. den Brief an Sophie v. La Roche, März 1774. (Gaier). ゲーテは恐らく Shakespeare の „Hamlet" に於ける Ophelia の狂気の歌からもヒントを得たのであろう。(Reclam).

4412. die Hure —— als böses schimpfwort. (Grimm). vgl. 3730. (Schöne).

4413. Die —— 指示代名詞。= Meine Mutter. (Loeper). =Die hat mich umgebracht! 現在完了。

4414. Schelm —— verworfener mensch, betrüger. (Grimm). vgl. V. 2985, 3481. (Arens).

4415. Der —— 指示代名詞。= Mein Vater. (Loeper). = Der hat mich gessen!

現在完了。gessen = ge-essen. この本来の形は方言としてはまだ保存されているが、のちになって二つ目の過去分詞の ge がつけられた。(Arens). 子殺しの継母の役割が、Margarete に当てはめられたので、それに合わせて Faust には Mein Vater, der Schelm が当てがわれる。(Schöne).

4416. = Mein klein(es) Schwesterlein.

4417f. Hub auf —— Hob auf. < auf|heben = beiseite bringen, verwahren. わきに隠す、大切にしまっておく。(Fischer). bewahren, behaltenの意で wegnehmen の意とは正反対。wegnehmenは最初の行動であり、behalten はそれに続く 2 番目の行動である。(Grimm). persönl Dokumente, Kunstgegenstände, für Wert gehaltene Sachen aufbewahren. in, an (mit Akk). この個所の An einem は An einen が正しい。(GWb). „Urfaust" では An einen になっている。この 2 行の英訳は：„My little sister／My bones did lay／In a cool, cool glen." (MacNeice). 冷やかなる奥津城に、小さき妹我骨を埋めつ。(森林太郎). 小さい妹は、冷たい土に、わたしの骨を埋めた。(秦豊吉). die Beine —— die Gebeine, die Knochen. (Fischer).

4420. Fliege fort! —— (Ich) fliege fort! (Trend.). fort|fliegen.

4421. Sie —— Gretchen. der Geliebte —— Faust は自惚れて、気取って Geliebte と自称する。(Arens).

4422. = Und hört die Ketten klirren, das Stroh rauschen. das rauscht の das は指示代名詞で das Stroh を指す。Gretchen は錯乱状態になって、藁のベットの上で身をよじらせている。それで鎖がガチャガチャ鳴り、藁がガサガサ音を立てる。彼女は実際古い民謡と、自分の嬰児殺しの事実との確実な類似性から、自然に歌を歌ったのである。(Schröer).

この 2 行は „Urfaust" に比べると、表現の水準の低下は疑いない。„Faust zittert wankt ermannt sich und schließt auf, er hört die Ketten klirren und das Stroh rauschen." という „Urfaust" の指示は、後半だけの自己発言になっている。Faust がたった今聞いたばかりの歌に対する反応を、全く示さないということは、理解し難いことである。(Arens).

4422＋ tritt ein —— ein|treten.

4423. Bittrer Tod! —— (Das ist mein) bittrer Tod! Gretchen は明日処刑されるのを知っていて、もう刑吏 (Sie) が自分を連れにきたと思う。(Schröer).

4424. Still! —— (Sei) still! (um) dich zu befreien.

4424＋ sich vor ihn wälzend. ihn = Faust.

4425. Bist du ein Mensch —— Wenn du ein Mensch bist. fühle —— du に対する命令法。

4426. jn. aus dem Schlaf schreien. Faust は 2 回静かにするように警告して、目を覚ますかも知れない番人の話をする。全く事務的に振舞っている。Gretchen と再会して大声を上げることもない。(Arens).

4426＋ (um) sie aufzuschließen. sie ＝ die Ketten. Faust が鎖を掴んだので、Gretchen の恐怖は一層高まって、Faust の言葉は耳に入らない。(Düntzer).

4427f. die Macht über jn. —— 或る人を意のままに出来る力。現在完了。

4430. Erbarme ; laß —— 共に du に対する命令法。Erbarme dich (meiner)!

4431. Ist's —— Ist es. es は非人称。zeitig —— nicht zu spät, früh. (Fischer). rechtzeitig, frühzeitig. (Grimm). genung —— genug. vgl. V. 2139, 3572, 3727, 4265. (Fischer).

4431＋ steht auf —— auf|stehen. Faust が Gretchen を相手にするのを止めて、同情しているように見えたので、Gretchen は立ち上がる。(Düntzer).

4432. Bin ich doch —— Ich bin doch. 倒置による強調。noch so —— まだこんなに。

4433. Und —— dennoch, trotzdem. soll schon sterben! —— muß (ich) schon sterben!

4434. ich auch —— 私も。„Mein schönes Fräulein" (V. 2605) で一切は始まった。„Was hilft euch Schönheit, junges Blut?" (V. 2798) —— Gretchen は自分の美しさを知っていた。そして自分の美しさを多少鼻にかけていた Bärbelchen は破滅した (V. 3557). (Arens).

4435. Freund —— bedeutet auch den geliebten, den liebhaber. (Grimm). 英訳では lover. 初めて Gretchen は遠く離れた Geliebte を „Freund" と呼ぶ。このあとで更に 3 回呼んでいる (V. 4461, −85, 4505). これはゲーテの望んだ距離、„Urfaust" にはまだ存在しなかった距離を作り出している。(Arens). この „Kerker" の場を書くに際してゲーテは、雅歌 (Hohelied) とテキストとの相互の関わりを書き込んだのは明らかである (就中雅歌の 5 章と 2 章に描写された場面との関連)。そこでは語り手の女がためらったために Freund が立ち去る、彼女は彼を追って町をさ迷い、夜警たちから逮捕されて殴られ、娼婦として衣を剥ぎ取られる。(Gaier).

4436. Zerrissen liegt der Kranz, die Blumen (liegen) zerstreut. Hochzeits-Kranz は Jungfräulichkeit の象徴で、花嫁がその資格もないのにかぶると、その花

冠は引きちぎられ、花は撒き散らされて恥さらしになった。vgl. V. 3575f. (Schöne).

4437. Fasse...an! —— du に対する命令法。an|fassen. Faust は鎖の鍵を開けようとしたのである。(Endres). この Vers の前に V. 4542 と同じくト書きが欠けている。Faust から無理矢理つかまれたことに対する Margarete の拒絶は、V. 4576f. でなお一層強く繰り返される。(Arens).

4438. Schone! —— du に対する命令法。次行の Laßも同じ。現在完了。

4440. doch —— 理由。だって...だから。mein Tage nicht —— Umgangsprachlich. verkürzende Genitiv-Konstruktion：mein Lebtage nicht (nie im Leben). (Schöne). vgl. V. 2791, 2921.

4441. „Urfaust" では „Sie verirrt und ich vermags nicht." ここは感嘆符にも拘らずやはり疑問文である。„ich" が強調されねばならないだろう。何れにせよ自分の苦しみの表現が、同情の表現よりも先になっている。まして愛が表現されるはずがない。(Arens).

4442. in js. Macht sein —— 或人の意のままである。

4443. Laß —— du に対する命令法。nur erst noch —— へり下って哀願する気持ちを表わす。先ず初めに是非ともこれだけはさせて欲しい。tränken —— 現在では säugen, stillen が普通。(Grimm).

4444. herzt' —— herzte. es —— 前行の das Kind. 次行と 2 行下の es も同じ。

4445. Sie —— 一般の人々。V. 4448, −50 の Sie, sie も同じ。mir's —— mir es. mir —— 私から。kränken —— krank machen, mhd. krenken. = plagen, quälen. (Grimm).

4446. Und —— dennoch. nun —— 今。hätte —— 接続法 II。間接話法。

4447. froh werden —— laetari, eigentlich anheben sich zu freuen, unterschieden vom vorigen „froh sein (gaudere)", sich schon länger freuen. (Grimm).

4448. auf mich —— über mich. 英訳では：„they sing songs about me!" (Luke). „People are making me their song!" (Atkins). 無意識のうちに自分が歌った殺された子供の Märchenlied を、Gretchen は人々が自分を嘲笑して歌ったのだと錯覚している。Hiob 30, 9：„Nun bin ich ihr Saitenspiel geworden, und muß ihr Märlein seyn." (Schmidt). 神によって打たれた者に対する Spottlieder は、すでに聖書にある。z. B. Klagelieder Jeremias 3, 14：„Ich bin ein Spott allem meinem Volk, und täglich ihr Liedlein." 3, 63：„so singen sie von mir ein Liedlein." (Schöne). 恐らく道徳を説きながら、嬰

児殺しを歌う大道芸人の歌や、Volkslied が言われているのであろう。ゲーテは例えば 1758年 Frankfurt の嬰児殺しの女の処刑の際に作られた „Tränenlied einer bußfertigen Sünderin" を知っていた。(Erler). Es ist bös von den Leuten. = They're wicked people. (Luke).

4449. 錯乱した Gretchen は、先ほどの自分が歌った Lied のことを言っているのだろうか？　それにも拘らずそれを自分に関係づけたくないのだろうか？ Runge によって伝えられた Machandel-Märchen の原稿は、この Lied で終るのではなくて、殺された子供の不可思議な再生で終っている。(Schöne).

4450. jn. et.[4] tun heißen. 人に或事をするように命ずる。sie's —— sie es. sie は die Leute. es は前行の Märchen. 英訳では：„Who bade them apply it?" (Bruford). „Who gave them the right to say it's mine?" (Atkins). = Wer heißt sie es auf mich anwenden? od. Wer heißt sie es (so) ausdeuten?

4451. sich nieder|werfen. dir zu Füßen —— zu deinen Füßen.

4452. Jammerknechtschaft —— Jammer erregende Knechtschaft. (Fischer). (Um) die Jammerknechtschaft.

4451—52. Faust はショックを受けて、Gretchen の足元に身を投げる。これは自発的な反応である。しかし彼の言葉は文学である。彼は自分が誰なのかを明らかにする代わりに、自分自身の立場を説明して、自分を „ein Liebender" と言う。そして „Ketten" や „Gefängnis" を意味する „Jammerknechtschaft" と言う。„Urfaust" にはこの言葉はない。彼の言葉遣いは、彼と Gretchen との間の溝を今一度どぎつく照らし出すものである。しかもその溝が自然なものであれば、その溝は精神的なものであり、その溝が装われた情熱であれば、その溝は魂の溝、即ち、愛の拒否である。(Arens).

4453. laß —— du に対する命令法。次行の Sieh も同じ。anrufen —— anflehen (meist im kultisch-relig Bereich). (GWb). (Um) die Heiligen anzurufen!

4453—59. ここも „Faust I" で初めて付け加えられた。Gretchen が Faust の方に身を投げると、鎖が石の部屋の中でガチャガチャ音を立てる。これは彼女にとっては地獄の恐ろしい音なのである。牢獄はこの鍵に関して付け加えられた詩句に於て、一つの新しい意味を獲得する。即ち、牢獄は人間が捕えられている地上の空間、人間の下で荒れ狂っていて、人間を呑み込もうとしている地獄と、沈黙していて——最後に語る頭上の天国との間の、地上の空間なのである。(Arens).

4458. Grimm —— wut, wütender, heftiger zorn. (Grimm).

4459. Getöse —— gewaltige, ohrenbetäubender Lärm. (GWb).

4460. この場で初めて、作品全体としてもただ一度だけ Faust は、彼女にその名前で話しかける。至極当然のことだが、Faust は今まで一度もしたことはなかった。vgl. Anmerkung zu V. 3414. (Arens). 夢遊病者は自分の名前を聞くと、即座に我に返ると一般に信じられている。(Heffner).

4461. aufmerksam —— 英訳では、(hearing her name), (Listening), (becoming attentive) など。Das war des Freundes Stimme! —— ゲーテが翻訳した Hohelied 2, 8－10は次のようになっている：„Sie ists die Stimme meines Freundes. Er kommt!...Er steht schon an der Wand, siehet durchs Fenster, gucket durchs Gitter! Da beginnt er und spricht：Steh auf, meine Freundinn, meine Schöne, und komm." vgl. V. 4435. (Schöne).

4461＋ auf|springen. ab|fallen. Die Ketten fallen ab. は „Urfaust" にはない。Faust が鍵で開けたのは明らかである。„Urfaust" では „Er schliesst...die Arm Kette auf." とはっきり書かれている。Apostelgeschichte 12, 6f. では、主の天使が牢獄の Petrus に歩み寄って言う：„Stehe behende auf. Und die Ketten fielen ihm von seinen Händen." (Schöne).

4462. er, ihn —— 前行の Freund. 現在完了。大声で呼ばれた声の響きと自分の名前が、Gretchen の心を打つ。だがまだ彼女はその声と、自分の傍に立っている人物を同一視することはできない。この人物は „er" であり、„du" ではない。(Arens).

ゲーテが意識した聴覚を、視覚よりずっと強く記憶を呼び覚ますもの、とみなしているのは、心理学的には極めて興味あることである。そして直ちに Gretchen の意識がはっきりする、少なくとも彼女自身の状態に関しては。彼女の視覚は、精神の混乱した状態から、まだ脱け出してはいない。なぜなら彼女は、傍で跪いている Faust が相変わらず分からないからである。(Endres).

4463ff. Ich bin frei!...—— Faust に気付くや否や Margarete は、自由だ、救われた (V. 4474) と思う —— だが Faust の計画が分かるとすぐ彼女は(V. 4540ff.)、牢獄からの誘拐に抵抗する。もしかしたら彼女は何よりも先ず、Faust が自分と結婚してくれたら、古い法律上の慣習に従ってできるかも知れない、法律上の解放と救済のことなどを、考えているのだろうか？ (16世紀には嬰児殺しの母親が、それで死刑執行を免れた多くの例が知られている)。(Schöne). wehren —— intr. einem wehren ＝ ihm

Einhalt tun, ihm hindernd in den Weg treten. (Fischer). soll —— 話者の意志。= Mich soll (od. kann) niemand daran hindern. 英訳では：„No one shall stop me." (Luke). „No one can stop me." (Atkins).

4465. = An seinem Busen (will ich) liegen!

4466. Faust の声は敷居の所から聞こえてきたように、Gretchen には思われる。敷居の下では地獄が煮えたぎっている。V. 4455ff. (Düntzer).

4467. Heulen und Klappen der Hölle ——„Urfaust" ではまだ Heulen und Zähnklappen のままである。Matthäus 8, 12：„Aber die Kinder des Reichs (des Bösen) werden ausgestoßen in die äußerste Finsterniß hinaus, da wird seyn Heulen und Zähnklappen." (Schöne).

4462—69. Gretchen はまだ現実に目覚めてはいないということが、Faust について過去形だけで語っている、ということに示されている。一度だけの現在形は、鎖から解放されたという感情の表われである。(Arens).

4470. 以下の場面を理解するには、Gretchen が精神的に混乱しているということを、忘れてはならない。Faust は今こそ発見されずに、Gretchen と牢獄を脱出する絶好の機会だと知っている。しかし Gretchen はそのことをはっきりと意識することが出来ない。(Endres). Gretchen には現実を完全に把握することは困難である。それは du と er の動揺に、単純明快に表現されている。V. 4470 の „Du", —71の „Er", —73の „Du". (Arens). Ich bin's! —— 昔からの決まり文句。= *Ich* bin der, den du meinst, den du suchst, *ich* bin die Erfüllung. (Arens). sag'—— du に対する命令法。es —— Ich bin's.

4471. Wohin ist alle Qual (vergangen)?

4472. Wohin (ist) die Angst des Kerkers, des Ketten (vergangen)?

4473. (Du) kommst, (um) mich zu retten!

4474. この行はその意味に相応しく無韻である。(Trend.).

4475—78. 直ちに彼女の心は、最初の無垢の頃に跳んで、終末の前にもう一度現在に戻る→ „Straße" → „Garten". この 4 行は恐怖の中にあって、束の間の救いと希望を、安らぎの一瞬の輝きをもたらすために、„Faust I" に付加されたものである。(Arens).

4476. der —— 関係代名詞。先行詞は前行の die Straße.

4477. der heitere Garten (ist wieder da). heiter —— hell, licht (vorzugsweise westdeutsch). (Fischer).

4478. Wo —— 関係副詞。前行の Garten が先行詞。js. warten.

4470－78. ここは „Urfaust" では次のような一行だけである：„Margarete, sinckt ihr Haupt in seinen Schoos verbergend." (Arens).

4479. fort|streben —— von einem Ort (eilig, ungeduldig) wegstreben. (GWb). Komm mit! —— 次の weile! と共に du に対する命令法。mit|kommen. weilen —— verweilen, bleiben. (Schöne).

4480. Weil' ich doch so gern —— Denn ich weile so gern.

4481. Eile! —— du に対する命令法。

4483. wir's —— wir es. Faust が „wir" と言うのはこの一回だけである。危険が一緒なのである。(Arens). es は前行のこと。

4479－83. Faust は取り付かれたようにただ一つのこと、つまり逃走にこだわり、逃走を迫る。しばらくの間彼女は完全に現実の中に —— 愛撫しながら恋人の面前にいる。Faust が来たのは自分を救うためだということを、もう忘れてしまっている。だがどうして Faust はこの愛撫に答えることができようか？ —— この牢獄の中で、門番が眠り、馬を連れた Mephisto が待ち、時間が過ぎて行くというのに。彼女の „weile!", „weilest" に対する反響が、Faust の "Eile!", „eilest" である。これは一個の Vers であろう！ (Arens).

4484. この場の急転に注目されたい。わけが分からずびっくりさせられるこの問から —— V. 4486 で変化して —— „Freund", „bang", „sonst－Himmel", „kalt", „Stumm", „verloren" (V. 4497) を経て巧みな運びで、Faust はもはや自分を愛してはいないという認識の、抵抗し難い悲痛な成り行きが形成される —— 以下のことはすべてこの結果なのである。(Arens). かなりのドイツの解説者が推測しているように、Faust は Gretchen への愛を決して放棄したわけではない。そのように見えるのはただ単に、Faust が何をさておき逃走をやり遂げねばならないという、状況の合理的な判断によるのである。これに反して Gretchen には、この合理的な判断能力が完全に欠けているのである。(Endres).

4485. ＝(Während du) so kurz von mir entfernt (warst). この付け加えられた Vers を理解するには、別れていた「現実の」時間に関係づけてはならない。この「現実の」時間は、目下の所 Gretchen には拭い去られている。Gretchen は前日の夕方、最後に会った Faust を待っているマルテの庭にいるもの、と思い込んでいる。(Arens).

4486. = hast (du) das Küssen verlernt?

4487. mir wird bange = ich gerate in Furcht und Sorge. vgl. V. 2050. (Fischer). vgl. V. 3491f. „Mir wird's so wohl in deinem Arm,／So frei, so hingegeben warm." (Arens).

4488f. Wenn —— Obwohl, Während. 2行下までかかる。sonst —— früher, vordem. (Fischer). vgl. V. 3397ff. „Seiner Augen Gewalt,／Und seiner Rede ／Zauberfluß." (Arens). überdringen —— sich auf ihn herabsenken. (Fischer). überwältigen. (Grimm).

4490. = als ob du mich ersticken wolltest. vgl. V. 3412f. „An seinen Küssen／Vergehen sollt'!" (Arens).

4491. Küsse! —— du に対する命令法。

4494. stumm —— unbewegt, leblos, tot, gefühllos. (Grimm).

4495f. bleiben —— erwartung und ungeduld, schmerzhafte täuschung, sehnsüchtige klage werden ausgedrückt durch fragendes, rufendes bleiben. (Grimm). 現在完了。英訳：„What has become of your love?" (MacNeice). „Where have you left your love?" (Bruford).

4497. jn. um et. bringen —— 或る人から或物を奪う。drum —— darum. um dein Lieben.

4497＋ sich von jm. wenden. Faust に背を向けるのは、明らかに Gretchen が、内面的に彼から離れていることを示すものである。彼女の問に Faust は答えないままである。(Arens).

4498. Komm, Folge, fasse —— du に対する命令法。

4499. この句は „Urfaust" にもあるが、お世辞たらたらの約束であり、Gretchen が返事をするような言葉ではない。(Arens).

4500. bitten —— 人間の 4 格と代名詞の 4 格を取る例。(Fischer). Faust は彼女に将来の同居を思い描かせるようなことは、一言も言わない。逃亡者、住所不定の Faust は、彼女に逃走の目的や同居を申し出ることなど、できないだろう。(Arens).

4501. denn —— really, indeed. (Thomas). auch —— 強調。本当に。

4502. los|machen.

4503. (Du) nimmst. jn. in den Schoß nehmen.

4504. Wie kommt es (dazu), daß. es は非人称。sich vor jm. scheuen.

4505. ここは „Urfaust" ではもっと直接的な表現になっている：„Befreyst

mich. Wen befreyst du! Weist du's?" (Schöne).

4507f. 簡潔なこの二つの文章で彼女は告白する。このあと „Urfaust" では „Groser Gott im Himmel soll das kein Traum seyn!" と言う。もう一度現実を夢に変えたいのである。(Arens). 2行とも現在完了。

4509. es —— 前行の Mein Kind.

4510. es —— Faust だということ。

4511. Gib —— du に対する命令法。Gretchen は眼前の Faust を、その手で確かめたいと思う。(Arens). Es = Dies.

4512. sie —— 前半の Hand. 次行の sie も同じ。この Faust の „liebe Hand" が、剣で兄を殺したという記憶が念頭に浮ぶ。恐らく彼女は自分で現場を見たのだろう。Faust の手の冷や汗が、彼女の想像では Valentin の血になる。兄の殺害についても彼女は、Faust を非難しない。(Arens). Valentin の死の記憶と結びついた行為の幻覚。(Endres).

4513. Wische...ab! —— du に対する命令法。ab|wischen. mich deucht —— mich dünkt. vgl. V. 2553. (Fischer).

4515. Ach Gott! —— vgl. V. 2895. 現在完了。

4516. Stecke...ein —— du に対する命令法。ein|stecken. Gretchen には兄を殺した Faust の剣が、幻想の中で見えるのである。(Trunz).

4517. jn. um et. bitten.

4518f. Laß —— du に対する命令法。das Vergang(e)ne —— 過ぎ去ったこと。現在完了。„Das Vergangene vergangen sein zu lassen" は、ゲーテが時折り表明していた、彼自身の考えに完全に相応しいものである。„Keine Rekriminationen, keine Vorwürfe über Vergangenes, nun doch nicht zu Änderndes. Jeder Tag bestehe für sich ; wie könnte man leben, wenn man nicht jeden Abend sich und andern ein Absolutorium erteilte?" (Fr. v. Müller, Tagebuch, 6. 12. 1825). V. 4584で Gretchen は „Es ist eben geschehn!" と言う。この点では彼女は Faust と同じである。(Arens). um|bringen. 英訳では：„Let what is gone be gone!／You are killing me." (MacNeice). „Let what is past, be past, or you will be the death of me." (Atkins).

4520. übrigbleiben より übrig bleiben の版の方が多い。—— continue to live. 生き続ける。(Thomas.) überbleiben. 生き残る。(Grimm). „Urfaust" では überbleiben. 今や Faust は Gretchen のせいで死ぬことになる。彼女は今の所この Faust の言葉を、文字通り受け取ることしか出来ない。そこで彼女

は長々とあとのことを頼む。Faust は生き続けねばならない。(Trend). Gretchen は意識が混濁していて、自分の家族が全部同時に死んで、同時に埋葬されるように思い込んでいる。(Arens).

4522. die —— 前行の die Gräber. für et. sorgen.

4523. Gleich morgen —— 明日 Gretchen の処刑のあと。(Schröer).

4524. (Du mußt) der Mutter...geben.

4525. sogleich —— gleich を強調した形。gleich には ganz dicht, ganz nahe の意味がある。(Grimm). 行末に legen を補う。

4526f. 行末に legen od. begraben を補う。Gretchen は二人の死に責任があり、近づきすぎて、この二人を怒らせたくないので、少し離れて葬られるのを望む。だが彼女は二人をいつも愛していたので、„nicht gar zu weit" と言うのである。(König).

4528. =das Kleine an meine rechte Brust (legen).

4529. wird —— 未来時称による命令。bei mir —— 教会の墓地の隔離された場所に埋められる犯罪者の傍に。(Trend.). 英訳では：„Nobody else will be beside me." (Greenberg). „No one else is to be beside me!—" (Atkins). この Vers の感嘆符のあとには、Gedankenstrich がついている。ついていないのは Trunz の版だけのようである。前行の Punkt によって、そのあとの感嘆符とダッシュが、はっきりと際立っているこの文は、その殆んど猥せつなほどの死と性との、死滅の床 (V. 4540) と子作りの床との混合のうちに、挑発するように存在している。liegen はこの文を、以下の文と結びつける働きをする。(Arens).

4530. sich an jn. schmiegen.

4531. Das —— 前行の zu 不定詞句。次行の es も同じ

4532. will nicht —— しそうにない。以前の愛情に戻ることはもう出来ない、と彼女は考えている。(Thomas).

4533. Mir ist's —— Mir ist es (zumute). vgl. V. 2040, 2755, 3809. als müßt' ich...—— als ob ich...zwingen müßte. sich[4] zu et. zwingen. 無理して...する。

4534. Als stießest du...—— Als ob du...zurückstießest. 狂気にも拘らず Gretchen は、Faust の自分への心遣いは、もはや以前の愛ではないと感じている。(Reclam).

4535. doch —— trotzdem. blicken —— dreinschauen. (GWb). fromm ——

zwischen Liebenden, Verlobten, Eheleuten：liebevoll-zärtlich, treu, mehrf mit der Nuance scheu-ehrfurchtsvoll. (GWb). ehrlich, innocens, unschuldig. (Grimm). mild, gütig, wohltätig, mitleidig. (SWb). この3行の英訳は：„It is as if I had to force myself upon you／And you were pushing me away.／And still it's you, looking so kind, so good." (Atkins).

4536. Fühlst du —— Wenn du fühlst. fühlen —— jdn, jds Wesen, Persönlichkeit erkennen. (GWb).

4537. Dahinaus —— in jene Ferne hinaus. 遠くに。(GWb).

4538f. Ins Freie —— Into freedom! (Luke). Out there, away! (Greenberg). Ist das Grab drauß —— Wenn das Grab drauß ist. drauß=draußen. (Fischer). Lauert der Tod —— Wenn der Tod lauert. so komm! —— so komme ich! V. 4536 の Faust の „so komm!" を取り入れた、二重の意味を含んだ結論を持つ条件構造。外で墓が待っているのなら、死が待伏せしているのなら、そのときだけ私はあなたと一緒に参りましょう (ich komme) —— そのときは私の死よ、来るがよい！ (komme du, mein Tod!). (Schöne).

4540. Von hier (komme ich) ins ewige Ruhebett.

4542. fort|gehen. könnte...mit —— 接続法Ⅱ。実現不可能な願望。mit|können. Gretchen の断呼とした明白な言葉のあと、Faust は立ち去ろうとするかのように、明らかに彼女に背を向ける。今や彼女は糸車に向かっていたときの言葉 (V. 3378－81) とは、正反対の立場に行きついた：„wo ich ihn nicht hab', ist mir das Grab,／Die ganze Welt ist mir vergällt." 今や彼女は彼に逆らって墓場を選ぶ。(Arens).

4543. So —— 要求を批判的に強める。wolle —— du に対する命令法。offen|-stehen.

4544. darf nicht —— kann nicht. (Schöne). kann...fort —— fort|können. Rettung と Freiheit について二人の見解の相違が明らかになる。Faust の Freiheit は im Freien sein を、befreien は die Ketten aufschließen や、aus dem Kerker führen を意味している。Rettung は Faust にとっては、首切役人による死から守ることである。Faust の Komm! も Folge mir! も、ただこのことを意味しているにすぎない。何故なら Faust の目的は唯一処刑の回避なのだから。(Arens).

4545. Was hilft es fliehen? —— es は非人称。(zu) fliehen. 逃げることは何の役に立つのか？ vgl. V. 3840. Sie —— 国と教会の代理人たち、警官

たち。(Heffner). 4行下の sie も同じ。doch —— 理由。auf|lauern. ここは彼女が子供を殺したあと、逃亡してさ迷い歩き、逮捕されたときの暗い思い出。(Königs). Margarete の逃走の拒否は、ゲーテ時代の慣行に於ても、指名手配書や高額の懸賞金によって、十分理由のあることである。嬰児殺しの母親 Susanna Margaretha Brandt の逮捕には —— 彼女が女中として丸一年働いて得た金額の4倍よりも多い、50ライヒスターラーが提供されていた。(Schöne).

4546. Es —— 後半の zu 不定詞句。so —— sehr.

4547. das böse Gewissen —— das Bewusstsein des begangenen Unrechts, der Sünde. (Heyse).

4548. Es —— 後半を受ける。die Fremde —— fremdes Land. (Fischer). schweifen —— herumziehen. (Lange). (zu) schweifen.

4545—50. 最初死の不安にかられて、命乞いをした Gretchen は、自分にとってはそのような生き永らえる救済はあり得ないということが、全身全霊を以て、幾重にも分かったのである。たとえどこに居ようとも、彼女は自分の行為を忘れることはないだろう。それからの解放だけが、真に解放になるだろう。従って唯一彼女に残っている道は、苦悩の終末としての死への道である。Faust の „Ich bleibe bei dir." は、もはや何の役にも立たない。(Arens).

4551. もう一つの幻覚。Gretchen は自分が溺死させた子供を救うために、Faust を案内していると思っている。(Heffner).

4552. Rette —— du に対する命令法。

4553f. Fort! —— Aufforderung zum Weggehen. (GWb.) vorwärts, weg. (Eischer). immer (weiter) den Weg.

4557f. wo —— 関係副詞。先行詞は次行の Teich. die Planke —— ein aus Bohlen hergestellter Zugang zum Teich. 池の中に突き出ている桟橋。(Trend.).

4559. Faß —— du に対する命令法。es —— Kind. 次行と2行下の es も同じ。

4563. Besinne dich —— du に対する命令法。sich besinnen —— ohne Ergänzung = zur Besinnung kommen. 正気に帰る。(Fischer).

4564. Nur einen Schritt —— Nur einen Schritt (hinaus).

4565. Wären wir —— 接続法Ⅱ。実現不可能な願望。この山を通り過ぎさえしたらよいのだが。den Berg vorbei —— am Berg vorbei. (Lange).

„vorbei" と結びついた動詞は、19世紀まではしばしば4格と共に用いられた。vgl. V. 2191. (Erler). 再び Gretchen の心に、Faust の言葉に結びついた妄想の産物が頭をもたげる。彼女は自分が frei だと思い込んで、逃走の恐ろしい光景を思い描く。(Trend.).

4565－73. もう彼女には Faust と一緒に逃げる自分の姿が見える („wir" と初めて彼女は言う。) しかし彼らの罪、Gretchen の罪の山を、彼らは通り過ぎることはできない。寝ぼけて正気でない母親の姿が、他の何よりも恐ろしく彼女の前に現われる。母親は winken や nicken などの親しい合図をするのではなく、二人が邪魔されずに一緒に居られるように (二度目に彼女は „wir" と言う)、娘から薬を飲まされて、目覚めることのない、重い眠りを眠るだけである。それでも彼女は „Es waren glückliche Zeiten!" と言う。(Arens).

4567. der Schopf —— seit dem mhd. ursprgl. = in ein Büschel zusammengefaßtes Kopfhaar ; dann allgemein = Kopfhaar. einen beim Schopfe fassen —— unpersönl. Vom Gefühl des Grauens. (Fischer). 従ってこの Vers は、ぞっとする。何だか首筋がぞっとする。Es は非人称。

4568. V. 4566 の繰り返し。後に H. Heine によって Volkslied の手法になった表現。(Loeper).

4569. mit dem Kopfe wackeln —— 頭をぐらぐら動かす。母親に死をもたらした眠気の想い出。(Thomas). 殺された者は、その死が償われるまでは落ち着かない、という民間信仰に基づいているのかも知れない。(Arens).

4570. der Kopf ihr —— ihr Kopf.

4571. Sie schlief so lange —— 睡眠薬の結果。vgl. V. 3511, 3787f. (Reclam).

4572f. freuten —— 次行の Zeiten と韻を踏む。

4574. = Wenn hier kein Flehen und Sagen hilft. „Urfaust" では：„Faust ergreift sie und will sie wegtragen." これを Faust は言葉にして言っているが、極めて弱い Vers である。(Arens.) 不定詞を伴う kein —— z. B. da hilft kein singen und sagen (d. i. was man ihm auch sage), es hilft alles nichts. (Grimm).

4575. ich's —— ich es. es は後半の zu 不定詞句。hinweg —— davon, fort, weg. (Fischer).

4576－78. Laß mich! —— 私を放せ！ Fasse...an —— du に対する命令法。an|fassen. Sonst —— außerdem, im Übrigen, ehemals. (Heyse). außer-

dem, früher, vordem. (Fischer). 英訳では：„I have done everything else for you, you know." (MacNeice). dir zu Lieb' —— お前のために。V. 4437 で Gretchen は、刑吏と思い込んで Faust の手を、gewaltsam と感じているが、ここでは mörderlich と言う。これは極めてどぎつい言葉である。前者では彼女が死ぬ覚悟が出来る前にやってきた、刑吏の手に抵抗したものであり、後者では罪と共に自分をまた生の中へ引き込むことによって、自分の意志に反して救出しようとするのは、Faust だということを彼女は知っている。しかしこれは贖罪と安らぎを求める、彼女の魂の殺害であろう。(Arens).

4580. Tag! —— 前行の Der Tag graut! を受ける。es は非人称。herein|dringen. Gretchen はただ „Tag" だけを取り上げて、この言葉を 4 回口にする。„Tag! Ja, es wird Tag!" これはただ：„Die Dunkelheit weicht, das Licht kommt wieder." ということである。„Der letzte Tag dringt herein!" は、彼女の生命の日の、裁判の日の、最後の日の光が、牢獄の暗がりの中へ射し込んでくる、ということである。(Arens).

4581. sollte —— 接続法Ⅱ。実現しなかったことを表わす。私の婚礼の日になるはずだったのに。es は非人称。心の奥深くに秘めていたに違いない婚礼への思いを、ここで初めて彼女は口にする。Faust には思い切って言うことはできなかったのだろう。Faust は結婚を思い浮かべることは、一度もなかった。(Faust が市民の娘と結婚しようと思っても、Mephisto から邪魔された Faustbücher の物語とは逆に)。(Heinemann). 口に出さないまま、いつも憧れていた婚礼の日 (V. 3570, 4436) は、彼女の苦悩の最後の日になったことだろう。婚礼の日は花冠がなかったり、引き裂かれたりして、彼女はまた恥をかいただろうから、たしかに純粋な喜びの日ではなかったかも知れない。しかし救いになったことだろう。今や死が彼女に救いをもたらすのである。(Arens).

4582. Sag —— du に対する命令法。daß du schon bei Gretchen warst —— 結婚する前にもう Gretchen の部屋にいたということ。„Urfaust" では：„Sags niemand dass du die Nacht vorher bey Gretgen warst." (Schöne).

4583. Weh meinem Kranze —— Ich darf als Gefallene keinen Hochzeitskranz tragen. (Trend.). 英訳では：„Alas for my garland!", „My pour wreath!", „Oh, my garland's spoilt!" など。

4584. Es ist eben geschehen! —— もう仕方がない。eben —— nun einmal.

(Fischer). 現在完了。英訳では：„What's done is done!" (Luke). „Already all is over." (Bruford).

4585. Wir werden uns wiedersehn —— das meint ein Wiedersehen im Jenseits. (Trunz).

4586. nicht beim Tanze —— sondern beim Hochgericht, das ihr nun vor der Seele steht. (Schröer). 婚礼のときのダンスではない。しかし処刑のときでもないだろう。この愛する女性は彼岸での再会を期待する。„Urfaust" では：„Wir sehn uns wieder!" (Schöne).

4587. sie —— Die Menge. 明日にはもう人々が、処刑の恐ろしい光景を見るために、音もなく押し寄せてくるだろう。„Urfaust" では：„Hörst du die Bürger schlürpfen (schleichen) nur über die Gassen! Hörst du! Kein lautes Wort." (Trend.). „Urfaust" に比べると、この Vers は緩和されている。(Schmidt).

4588. Platz —— 処刑が行われる Marktplatz. (Lange).

4589. sie —— 2行上の Die Menge. 4格。fassen —— Platz, Raum für etw. (od eine Anzahl Personen) bieten. 収容する。(GWb).

4590. Die Glocke ruft, das Stäbchen bricht —— 処刑の間 Armensünderglocke が鳴った。ドイツ帝国で通用していた、重罪裁判所の手続きによれば、裁判官は死刑判決を読み上げたあと、犯人が命を失うしるしに、白い杖を折って、それを犯人の足の前に投げた。vgl. im Schiller's Räubern：„Der Stab war schon über dich gebrochen." (Loeper).

4591. sie —— Henkersknechte. 死刑執行人の助手たち。(Schöne). packen —— fest zugreifend fassen, festhalten. (Fischer). 感嘆文。

4592. Blutstuhl —— 罪人がその上に坐って、首をはねられる椅子。(GWb). armesünderstuhl. (Grimm). entrücken —— (gewaltsam) fortschleppen. (Fischer). 状態受動。

4593f. zucken, zücken —— zücken は mhd. では殆ど現われない。md. の領域でのみ現われる。nhd. では zucken が支配的な形である。文学作品では、この二つの形は自由に使われたが、17、8世紀には zücken は、次第に文学作品から消えて行く。19世紀半ばには、den degen zücken という慣用句だけを残して、使用例は完全に途絶える。Reim の必要上使用される文学用語の響きを持っている。(Grimm). zucken —— ziellos. m. haben. eine kurze u. schnelle ziehende Bewegung machen. zücken —— Nebenform von

zucken. (Heyse). Schärfe —— Schneide des Beiles. (Fischer). „Urfaust" では：„Es zuckt in jedem Nacken die Schärfe die nach meinem zuckt!" Reim のため文末の zuckt を zückt に変えた。nach meinem (Nacken) zückt.

Wenn der Henker zu Schlag ausholte, zuckte jeder Zuschauer zusammen, als solle das Schwert seinen eigenen Nacken treffen. (Reclam). 英訳では：„The edge that rushes down at me／is darting now toward every neck." (Atkins). 斬首の刑はゲーテの存命中は、死刑執行の普通の進歩的人道的形式だった。その前は大抵生きたまま葬られるか、杭打ちの刑にされるか、紐で縛った袋に入れられて、溺死させられるかであった。(Schöne).

Gretchen は突然自分について語るのではなく、言わば交差配列の語順と、主語としての抽象名詞を持つ、7タクトの Alexandriner という作為的なスタイルで、金縛りにあった観客の一致した感覚を述べる。即ち、誰でも自分の首が一撃されるのを感ずる。この2行でゲーテは、不可能なこと、つまり地上の最後の瞬間の体験を表現しようと、努めているように見える(最後の文章は、死後の瞬間さえも先取りしている！)。それは Gretchen によってなされた罪を償う贖罪を、完全に明らかにするためなのである。ここから V. 4605は、その完全な重みを獲得する。ここには自己欺瞞は全く存在しない。言わば地上の出来事と死の価値を下げる、如何なるヒロイックな身振りも、ゲーテは慎重に避けたのである。(Arens).

4596. 接続法Ⅱ。実現不可能な願望。＝O wenn ich nie geboren wäre, (es wäre besser gewesen)! „Urfaust" にはない。これは文字どおりには、もう生きたくないという絶望的な願いである。しかしそれでもこの願いは、全面的な重みを持つには、少し型通りすぎる。その上 Faust は勿論生きるのを選ぶ。(Arens).

4597. draußen —— この場の冒頭のところで Faust は、Kerkertür の前に現われるので、この draußen はこの Kerkertür の前と理解される。観客にも Gretchen にも見える。(Schröer). Auf! —— adv. als Aufforderung, sich aufzumachen und davonzugehen. vgl. V. 418. (Fischer). ＝ Fort! verloren —— dem verderben unrettbar verfallen. (Grimm).

4599. schaudern —— 魔法の馬は日中は雲散霧消して、夜になると漸くまた馬の形になるので、夜が白むと身震いする。(Endres).

4600. auf|dämmern.

4601. herauf|steigen. aus dem Boden —— aus der Hölle. vgl. V. 4454ff.

(Arens). Mephisto が居るとGretchen は、Faust からさえも心が離れ、祈ることもできない。vgl. V. 3493－3500. 今や彼女は心を決めて、きっぱりと Mephisto と Faust に背を向けて、善き霊の方へ向かう。(Schröer).

4602. Der! der! —— Mephisto を指す指示代名詞。次行の der も同じ。ihn = Mephisto. Schick... fort! —— du に対する命令法。fort|schicken. 今や Gretchen は Mephisto が反世界、地下の世界に属していて、自分を連れ出すために来たのを知る。(Arens).

4603. an dem heiligen Ort —— Gretchen にとって牢獄と刑場は、彼女がそこでしか自分の罪を償うことが出来ない、神の裁きの場所である。(Erler). 2行下の Gericht Gottes... が、なぜ Gretchen がここで、この表現 (heiligen Ort) を用いているかを説明している。(Trunz).

4604. Er will mich! —— Er will mich (holen)! 連れて行く。(Arens). Du sollst leben! —— これは別の形式による、今までの Faust の命令の繰り返しにすぎない。この言葉で Faust は、それと知らずに将来のこと、即ち、「彼女は生きるであろう」ということを、予言しているのである。彼女は自分と Faust のための自発的な贖罪の死によって、真の生命の中に入って行く。彼女は Faust がやった一切のことを、自らに引き受けているので、彼女の苦悩は、真に代理としての苦悩である。従ってキリストの苦悩のように、救済を惹き起すのである。(Arens).

4605. Gericht Gottes! —— Gericht Gottes (wünsche ich)! dir —— Gott. einem etwas übergeben —— es ihm uneingeschränkt überlassen. (Fischer). 現在完了。現世に於ける Faust の救出の行動には従わない、と Gretchen は決心する。そして神の正義に服従することによって、内面の自由を獲得する。(Lange).

4606. ihr —— Gretchen. jn. im Stich lassen. 今や Faust は Mephisto の呼びかけによって、決断するように強いられる。つい先ほど Gretchen が Faust によって、決断を求められたと全く同じように。曽って Faust は悲劇的な破滅を装いながら、偉そうに言った：„Mag ihr Geschick auf mich zusammenstürzen und sie mit mir zugrunde gehn!" (V. 3364f.) それが起ったのである。ただ „mit mir" だけが抜けていた。Faust が Gretchen の運命と、Valentin の死に対する自らの責任を認め、自分が彼女と共に犯した罪を、彼女と共に償うことにしようと思えばできる今になって、彼はただ自分だけが助かることしか考えない。Faust は „für meine Lieben Leib und Blut

zu lassen" (V. 3419) からは、遙かに遠く離れている。(Arens). 神に対する Gretchen の敬虔な献身の言葉を聞くと、Mephisto は不快になって、Faust が直ちに自分に従うように強く主張する。(Düntzer).

4607f. Rette —— du (Gott) に対する要求。Rette mich! —— Rette mich (vor der Hölle)! (Endres). Psalm 34, 5ff.: „Da ich den Herrn suchte, antwortete er mir, um errettete mich aus aller meiner furcht. ... Der Engel des Herrn lagert sich um die her, so ihn fürchten, und hilft ihnen aus." (Schöne). Hamlet, Ⅲ, 4: „Save me, and hover o'er me with your wings, /You heavenly guards!" (Arens).

4609. Lagert euch umher —— 1 行上の Ihr Engel と Ihr heiligen Scharen に対する要求。sich umher|lagern —— take up position(s) round about. (Heffner). (um) mich zu bewahren.

4610. graut's —— graut es. es は非人称。Liebkosungen (V. 4480) から kühle Abwendung (V. 4497) を経て、Grauen に到る感情の段階は見事である。これが彼女の魂を救うのである。(Trend.). 勿論天使たちが彼女を守るのは、地上の裁判からではなくて、Mephisto の力から守るのである。Mephisto の Faust との結合が、彼女に „Heinrich! Mir graut's vor dir." という締めくくりの言葉を言わせるのである。(Endres). この句は „Ich sorge mich um dein Heil." の意味である。(Lange).

4611. Sie ist gerichtet! —— Mephisto がここで言うことが出来るのは、地上の裁判についてだけである。即ち、牢獄からの逃走を拒否する Margarete を、もはや刑吏から救うことは出来ない。しかし Mephisto はその際、悪魔の同盟者に対する、伝統的な (超自然的な) 判決を簒奪して言う: „judicatus es" (du bist gerichtet). これは旅回りの芝居や人形芝居の結末の所で、Doktor Faust についても言われるものである。それから反論の余地のない „in aeternum damnatus es" (du bist in Ewigkeit verdammt) が続く。(Schöne).

4611. Stimme von oben. Ist gerettet! —— (Sie) ist gerettet! „Urfaust" にはない。古い神秘劇から引用しているように、これは „Prolog im Himmel" に続く、「地上の営み」(Erdetreiben) の悲劇への唯一の「超越的な」介入である。この介入は第二部の結末に於ける、救われて執りなしをする Büßerin Margarete の出現を、予め示すものである。(Schöne). Gretchen に対して予定されている神の恩寵を強調するために、ゲーテによって挿入された。

この „Stimme" のドラマ上の論理は、必ずしも明らかではない。つまりこの „Stimme von oben" を正当化するものは何か、誰がこの声を聞くのか、Faust にはどのような効果がなければならないのだろうか、という問題が残るのである。同様に1808年に初めて挿入された Mephisto の „Her zu mir!" は、Gretchen が身を委ねた神の秩序に、Faust が転向するのを妨げる。Faust を気遣う Gretchen の声は、Faust の耳に入らぬまま、次第に消えて行くように思われる。第一部の結末に於ける Faust の人間的な未熟さは明白である。(Lange). Her zu mir! —— Mephisto のこの命令的な呼びかけにも拘らず、Faust はこれ以後内面的に Mephisto から離れた。第二部で Faust は我が道を行く。従者は今度は本当に „Diener" になる。(Heinemann).

4612. Heinrich! Heinrich! —— Gretchen のこの次第に消えて行く叫びを、ゲーテは 1829 年の Weimar での上演の際に削除して、Chor に変えた。Chor は Ist gerettet! を引き継いで、Engelsarmen と erwarmen を、3 重の Erwarmen と押韻させている！

Schlußchor
Allegro
Meph.: Sie ist gerichtet.
Chor. Ist gerettet!
Meph.: Her zu mir!
Chor
Andante dolce
Im Wolkenschoos gebettet,
Im Wolkenschoos gebettet!
Heran! heran
In Engelsarmen
entsühnt zu erwarmen
find Erbarmen,
Erbarmen, Erbarmen! (Schöne).

(下から 4 行目。(Um) in Engelsarmen entsühnt zu erwarmen. 罪が清められると、魂は暖かくなる。下から 2 行目。find —— find(e). 接続法 I。要求。= bekomme. Erbarmen —— 慈悲。)

Gretchen は心の底から湧き上がってくる衝動に献身することによって、その人間性のすべてを捧げて生きたのである。そしてそれによって苦しみ

ながら精神的に成長して、その幼稚な信仰（Gottgelall）が熱烈な信仰になり、迷いつつも真理を見出すことができたのである。Faust はこれに反して起った出来事から、決して成長することはなかった。彼は Gretchen の愛も、信仰も、希望も持ってはいない。彼に出来ることは Mephisto のそばで生活することだけである。そういうわけで Faust の発展の軌跡は、Gretchen のそれとは正反対である。従って彼の知識は、実際彼には何の役にも立っていない、ということが判明した。こうして第一部は、学者、魔術師、人間を僭称した Faust の、小市民の娘の人間的な偉大さに対する、明白な敗北で終る。第 4 幕の冒頭でようやく Faust は、Gretchen を再び „jugenderstes, längstentbehrtes höchstes Gut" として思い浮べて、sie „zieht das Beste meines Innern mit sich fort" と認識するのである。そして死後初めて彼は、彼女が彼にとって何を意味しているかを、経験することになるだろう。(Arens).

『ファウスト』脚注の試み（1）

ZUEIGNUNG
口上（Vers 1—32）

渡　辺　信　生

恐らく1797年６月24日に書かれ、1808年に印刷された。Zueignung は lat. dedicatio, widmung. widmungsschreiben, -gedicht.（Grimm）. この詩はゲーテの幾つかの詩の題になっているように、ある後援者や友人ではなくて、一般に読者に捧げられたものである。これは青年時代の作品に対する詩人の関係を、読者に説明するものであるが、今やそれを彼は成熟した人間として完成するのである。ここで用いられている Stanze の形式をゲーテは、80年代以来しばしば憂愁を帯びた自己告白に用いている。（Witkowski）.

Stöcklein によれば、この „Zueignung" は技巧をこらした語調であると同時に、心の声、自然の囁きである。それは同時に詩作の過程について率直に語られた告白を含んでいる。にも拘らず極めて計算され盡した、この上なく含蓄のある序曲である。更に言えば Dieser Tränenstrom（V. 29）は、真実であると同時に、詩人の山なす象徴の一部にすぎない...

所で „Zueignung" は、Stanze １と４は曽っての日々の詩に関係があり、２と３は当時の友人達に関係があるように作られている。この詩は友人たちに捧げられたものとして、受取られるかも知れない。そのことは一言も言われてはいないけれども。詩人が放置していた自らの作品を改めて自分に捧げる、或いはむしろ自分を完全に作品に捧げるということの方が、より適切であるように私には思われる。W. Keller によれば、ここでは一人の私的な詩人である人間が、自らの自己との出会いを、四つの詩節に託して、叙情的に表現している。しかし他方ではまた „Zueignung" は、「一つの文学作品の成立についての詩」でもあるのだ。（Arens）.

„Zueignung" の韻律の形式は、Stanzenstrophe の形式である。この形式は次のような原則の遵守を要求する。即ち、５脚８行の Jambus[1] の詩節で、一貫した女性韻[2]の語尾を持っていること。或いはまたこの場合のように、交互に女性韻と男性韻[3]の終止形を持っていること。その際更に１、３、５、７、８行

の詩句は女性韻、2、4、6行の詩句は男性韻で終らねばならない（イタリヤの手本はこれとは逆に、女性韻の終止形のみである）。韻律は：∨－∨－∨－∨－∨－(∨). 脚韻は：ab ab ab cc。緊張を増しながら、2行1組の詩行が3回繰り返される。それから Wolfgang Kayser によれば、締めくくりの対韻に於て、解放に、安らぎと明澄さに辿り着く。(Kayser 1961, 99). Kayser は „Goethes Dichtungen in Stanzen" についての論文で、Stanzenform はゲーテにとって „Sprechdichtung", 即ち、よく響く声で朗読される Dichtung に適した韻律である、ということを証明している。[1]Jambus：2音節から成る詩脚：∨－。[2]weibliche Kadenz：詩行の最後が Senkung で終る場合：wagen—tragen. [3]männliche Kadenz：詩行の最後が Hebung で終る場合：schön—gehn. (Ciupke).

Vers 1. (以下この Vers を省略する。数字は Hamburger Ausgabe の詩行による。) naht euch —— sich nahen. wieder —— ゲーテの若い頃登場人物たちが、最初に接近してきたことへの言及。(Thomas). schwankende Gestalten —— für die Urgestalten der „Faust"-Dichtung u - konzeption (in Berührung mit Vorstellungen von Schatten des Hades sowie mit der Metamorphosenlehre). (GWb). Faust, Gretchen, Mephistopheles, その他のドラマの人物たち。(Heffner).

ゲーテは形態学に関する著作の中で、まだはっきりした形（Form）をとってはいない形態（Gestalt）を、schwankend と呼んでいる。「しかしあらゆる形態、特に有機物の形態を観察すると、いつまでも存在し続けるもの、静止しているもの、孤立したものはどこにも存在しない、むしろあらゆるものは、休むことなく動いて変化している（schwanken）ことに気づく。」(Bd. 13, S. 55, 30—33)。従ってこの場合作品の人物たちは、まだはっきりした形をとってはいなかったのではなくて、彼らはまだ絶え間なく動いているのである。Schwanken = die Gestalt wandeln. vgl. 348, 5082, 8445, 10051. (Trunz).

しかしながら die schwankende Gestalten は、ここでは直接的には、はっきりと目に浮ぶようにすることが殆ど出来なかった作品の、漠然とした人物に対する、詩的な隠喩にすぎないと私は思いたい。全形態を考えに入れて初めて個々の形態は、機能と意味を獲得する。ところで個々の人物をはっきりと造形するとき、全体像が曖昧だったことが、まさしく „Urfaust" の特徴を示すものだった。この曖昧さが、例えば Mephisto に対する Faust の

関係を決定するのを妨げたのである。die schwankende Gestalten を霞や霧の中に浮び上る人物 —— 震え、ぼやけた輪郭を持った人物として、純粋に光学的な現象として、全くリアルに理解することができる。そしてこのような見解は、前後の関係を完全に満足させることだろう。たとえ die schwankende Gestalten をあれこれ解釈するとしても —— そうした解釈は互いに排斥し合うことはないのだが、何れにせよそれは輪郭の、或いは存在の漠然としたものであって、この漠然としたものこそ、詩人に決断を要求するものなのである。なぜなら詩人は、南方の空の下で芸術と文化を体験してからは、境界を飛び越える北方の精神と感情から離れて、具象的な形式の明晰さを追究しているからである。(Arens).

ゲーテは幻影（Traumgestalten）も、霊的な、肉体を持たない存在の現われも、そしてつまるところは、芸術家や詩人の創作したものも、それが最後の明確な形を受取るまでは、schwankende Gestalten と呼んでいる。schwanken という語は、Lutherbibel にはまだ出ていない。従って18世紀の終りには、比較的新しい言葉だった。古典主義の作家たちにとって権威のあった Adelung の辞典には、Schwanken は Wanken を強めたものとして出ている。(Buchwald).

2. Die —— 関係代名詞。先行詞は schwankende Gestalten. 行末に hatten を補う。früh —— 1772年。従って1797年 6 月に書かれた „Zueignung" より25年古い。(Lange). trüb —— ゲーテが „Farbenlehre" に於て、光を部分的にしか通さない中間態（Medium）を表わすのに用いた言葉。そこから彼の文学に於ける次の様な隠喩が生ずる：„der trübe Blick sieht die Dinge undeutlich, nicht in Klarem Licht, aber auch in Dunkel."（Trunz).

dem trüben Blick —— 当時25年前（„einst"）、若い頃（„früh"）ゲーテはこれらの人々を —— 恐らくは熱狂して主観的な束の間の気分や、曖昧な気分によって、即ち、彼らの真の意味を見抜くには不十分な、まだ曇った眼差しで見ていたので、彼らを生み出した感覚や自我感情が消えてしまうと、彼らもまた彼から消えたのである。自我に捕われた若い人間の眼差しが trüb と呼ばれるのは、詩人が今では klar に見て、揺れ動くものを捕えることができると思っているので、当然のことである。だがこのことは、書き加えられても、その根本的な性格が変らなかった第一部については、言われ得ないだろう。Eckermann との対話でゲーテは次のように語っている。「第一部は個人の多少曖昧な意識の状態から生れたということも、考

慮しなければならない。(am 3. 1. 1830)」「第一部は殆ど全く主観的だ。すべては一層囚われた、一層情熱的な個人から生じているのだが、その男の薄暗い心の闇が、実際人々には快いのかも知れない。しかし第二部には主観的な所は殆んどない。ここに現われるのは、一層高い、一層広い、一層明るい、一層情熱のない世界なのだ...(am 17. 2. 1831)」(Arens).

3. wohl —— この行と次行には疑問符がついている。従ってこの wohl は、例えば „Er ist wohl krank." のように、不確かな状況を示す場合の、疑いが少し残っている場合の wohl と解した方が自然である。festzuhalten —— fest zu halten と3語の版もある。1828年版のこの3語の綴り方は、„fest" と „halten" に、同じ強さのアクセントを置くのを可能にする。(Gaier). しかし Loeper によれば1808年の Cotta 版では3語になっている。festhalten —— bewahren, etw auf Dauer bzw unveränderl erhalten. (GWb). versuchen, et. zu tun. 次行と同じく疑問符が示しているように、今でも詩人は自分の計画が成功すると信じてはいない。(Arens).

4. Wahn —— „trüb" や „schwankend" に応じた言葉で、不確かな(詩的な)考え。純粋に客観的な表現ではなくて、軽く見下す感じがある。実現への余りにも大きな不安に満ちた期待のこと。(Arens). Wahn はここでは、彼らを確かな明析さまで高めたい、という希望を伴った、漠然とした考えの意。(Witkowski).

   Wahn —— wie die bedeutung „einbildung, bethörung" mehrfach zu der von „begeisterung, schwärmerei" gemildert erscheint, so kann das wort auch auf den kühnen flug der dichterischen phantasie angewendet werden. (Grimm). mein Herz —— 4格。geneigt —— uneigtl. mit Dativ. = zugewandt. (Fischer). überhaupt mit wohlwollen und hinneigung zugewendet, gewogen, günstig, hold. (Grimm). この Vers は=Fühle ich, daß mein Herz noch jenem Wahn geneigt ist? この心はいまも、あの頃の夢にひかれているのか? (小西). 英訳ではこの2行は:„Shall I now try to hold you captive? /Do these illusions still attract my heart?" (Atkins).

5. Ihr drängt euch zu! —— sich zu|drängen. so —— dann. それなら。mögt ihr walten —— you may have your way. (Thomas). walten —— nach Belieben handeln. (BWWb). 思ふままに振舞って好い。(青木)。押し寄せてくる幻影は詩人に決定の自由を全く与えない。言葉の本来の意味で、彼らの自由にさせざるを得ない。(Arens).

6. Wie ihr aus Dunst und Nebel um mich steigt —— ホメロスの地下の世界では、靄と霧の中から、影たちが浮び上ってくる。死者たちは Odysseus に呼び出される。そして生贄の血を飲んだとき、彼に話しかける。だが同時にゲーテは、この „Dunst und Nebel" という言葉で、イタリヤ旅行の視点から、アルプスの北の地方、その精神的風土、北方の詩的形式のことを言い表わしているのである。そしてここでは影たちと共に、中世の悪魔や魔女についての幻想、Brocken の霧、Walpurgis の夜の中から出てくる „Faust" の人物たちの素性を指摘しているのである。„Zueignung an Faust„ を日記に記入する2日前の、1797年6月22日にゲーテはシラーに宛てて、新たに取りかかったドラマの仕事について、次のように記している：„Unser Balladenstudium hat mich wieder auf diesen Dunst- und Nebelweggebracht." (Schöne).

この2日前のシラー宛書簡でゲーテは „Faust" を、diese „Symbol-, Ideen- und Nebelwelt" と書いている。(Witkowski). Wie ihr...um mich steigt —— Ihr...um mich steigend. Wie に始まるこの Vers は、前行の so の比較の対象になっているとは考え難いので、このような解釈が妥当と思われる。um mich —— Dunst und Nebel の付加語ではなく um mich steigt.

7. Busen —— Inneres. (Arens). erschüttern —— in lebhafte Gemüthbewegung versetzen. (Heyse). ここは＝ Ich fühle mich in die tief innerliche Ergriffenheit meiner Jugendtage zurückversetzt. (Fischer).

8. der —— 関係代名詞。先行詞は Zauberhauch. Zug —— Gesamtheit einherziehender Lebewesen. euren Zug —— (der schwankenden Phantasiegestalten) Zug. (Fischer). umwittern —— ahnungsvoll umschwebt. (Fischer). von luft, hauch, duft wie umwehen. (Grimm). Stöcklein は誇張して次のように言っている (1964：34)。「詩人の思いがけない気分の変化を惹き起したものは、幻影たちではなくて、彼らに付随していたもの、Dunst と Hauch だった...幻影たちは青春の中から姿を現わして、青春の一部を伴っている。」従って復活祭の合唱が Faust に与えた影響との類似を、認めることができるだろう。(Arens).

9. mit sich bringen. die Bilder froher Tage —— 愉快の日の面影。(青木)。

10. Schatten —— als blosses erinnerungsbild. (Grimm). nach antiker Vorstellung als Ausdr. für einen Verstorbenen. (Fischer). auf|steigen. ゲーテの友人たちの中で早く死んだ人々 (V. 16) ばかりでなく、彼の目の前から姿を消

したり、疎遠になったりした人々（V. 24）にも関わりがあるだろう。(Schöne).

今や変容して現われる曽ての日々や人々(frohe Tage, liebe Schatten)は、このドラマと分ち難く結びついていて、この詩全体を貫いているメランコリーを惹き起す。„liebe Schatten" は無条件に故人を意味してはならない。曽てゲーテと親しかった人々の、影のような面影かも知れない。(Arens). Gaier は „Faust" と „Odysee" の構成の類似から、„Odysee" を „Faust" の Subtext として重要と言っている。

11. Gleich einer alten... —— Wie eine alte, halb verklungne Sage. einer alten... は3格。verklingen —— übtr. = nur noch od. kaum noch in der Erinnerung fortleben. (Fischer). halbverklungen —— 半ば忘れられた。

12. Kommt...herauf —— herauf|kommen. mit —— Adv. ともに、一緒に。Liebe —— für die geliebte person. (Grimm). Freundschaft —— für Freund(e), Verwandte. (GWb). Straßburg や Frankfrut 圏の友人たち。Friederike Brion, それに恐らく „Faust" の草案を朗読して聞かせた最初の Weimar 時代の友人たち。このモティーフは V. 65で再び取り上げられる。(Trunz).

13. Der Schmerz —— ihres Verlustes. (Düntzer). es —— 形式上の主語。die Klage が真の主語。

14. = den labyrinthisch(en) irren Lauf des Lebens.

15—16. nennt —— 主語は2行上の die Klage. die —— 関係代名詞。先行詞は die Guten. jn. um et. täuschen —— 或人から或物を騙し取る。(Grimm). vor mir hinweggeschwunden (sind). 現在完了。私の前から消えてしまった。Glück —— ursprünglich „schicksal, geschick, ausgang einer sache." (Grimm). Schicksal, Verhängnis. (Heyse). allgemein = Schicksal ; z.B. : Wie enggebunden ist des Weibes Glück, Iph, 29. (Fischer). 英訳では：„And names kind friends, cheated of joy by fortune,／Who have disappeared ahead of me." (Atkins). Vom Glück getäuscht —— Durch frühen Tod vom Schicksal (Fortuna) betrogen. (Schöne).

„die Guten" —— „um schöne Stunden vom Glück getäuscht" というのは、響きは良いがぱっとしない表現である。„Glück" はここでは „Fortuna, Schicksal" (運命) という、より一般的な、より古い意味で用いられている。ここの所は、あの人たちは早逝するという運命だった、という月並み

なことを、明言しているにすぎないのだろうか。満足の行く解釈ではないかも知れないが、この Verse は以下のことに関連する場合にのみ、月並みではなくなるように思われる。即ち、私の詩の始まりを、とても満足して聞いた人々には、次の歌（„die folgenden Gesänge"）を聞くという素晴らしい時が拒絶されている、ということである。(Arens).

13—16. es wiederholt die Klage...—— klagend vergegenwärtigt er sich noch einmal sein bisheriges Leben mit all seinen Irrwegen und die Namen derer, die durch frühzeitigen Tod „um schöne Stunden vom Glück" gebracht worden sind. (Königs).

17. Sie —— 次行の Die Seelen. Gesänge —— 大叙事詞の歌（Homer, Vergil, Tasso, Ariost, Klopstock など）の意味に於けるジャンルの指摘。同様に Lied（V. 21, 23）は叙情的な視点を示し、押し寄せてきて自由な振る舞いが許される幻影たちは、ドラマの視点を示す。(Gaier). ゲーテは相変わらず Homer のことを考えているようである。つまり古典古代の歌手と自称しているのである。(Arens).

18. Seele —— umnennend für die Person. (Fischer). ein mit einer vernünftigen Seele begabtes Wesen, Menschen, Person. (Heyse). denen —— 関係代名詞。Die Seelen が先行詞。die ersten (Gesänge).

17—18. 生涯に亘ってゲーテは、親しい人々に „Faust" の場面を朗読して聞かせた。謂わば（ドラマ化された）叙事詩の歌を朗読する、Homer 風の吟遊詩人の役割を演じたのである。これは特に早い時期に書かれた場面に当てはまる。例えば妹の Cornelia や Merck, Lenz, Zimmermann などは、それを聞くことができたが、この Zueignug を書き記したときには、もう生きてはいなかった。(Schöne).

19. Zerstoben ist —— 現在完了。zerstieben —— intr. staubgleich auseinanderfliegen. (Fischer). Gedränge —— 人々。ein Haufen zusammengedrängter, oder sich drängender Menschen oder Tiere. (Heyse). das freundliche Gedränge —— 執筆中の „Faust" の場面を、聞いたり読んだりすることのできた、当時の殆んどの友人たち。(Arens).

20. Verklungen —— Verklungen (ist). 現在完了。遠く離れたり、疎遠になったりした友人たちは、Jacobi, Stolberg 兄弟、Boie, Klinger, Klopstock, Herder など。(Arens).

21. Lied —— 1808 年の初版のテクストでは、Leid になっている。1809 年の

ゲーテの日記の最後（„Weim. Ausg., Ⅲ Abt. Tagebücher 4 Bd. S. 374"）の所に（Riemer の筆蹟で）、次のような正誤表がついている：„Druckfehler meiner Werke in der Cottaischen Ausgabe. 8. Bd. S. 5. Z. 21. Leid lies：Lied." にも拘らず續く諸版では、1816年の再版だけが例外で、他は Leid がそのままになっていた。この正誤表の中の幾つかの覚え書きが、その後も考慮されていないので、この正誤表はその後忘れ去られてしまった、と推測することができる。それにゲーテがこの誤植を大目に見たということも、あり得ることである。なぜならそれによって更に2回繰り返される（V. 23, 28）„Lied" という言葉に、変化が与えられるからである。それにまた詩は詩人の苦痛の中から生まれてくるという考えも、ゲーテには縁のないことではない。（Trunz）.

初版は „Leid" になっている。ゲーテの秘書 Riemer は、これを „Lied" の誤植とした。しかしゲーテの存命中の版はすべて、この „Leid" を保持した。ゲーテの死後初めて Riemer は „Lied" に改めた。どちらが正しいか、つまりどちらがゲーテの意志に相応しいかということが、これまで問題として争われてきた。この問題は間もなく、外的な理由によって決定された。即ち、ゲーテは確かに „Lied" と書きはしたが、„Leid" のままにしておいた。なぜなら彼は偶然が自分に提供したものを、承認したからである。やがてまたこの問題は内的な理由によって、即ち、„Leid" のために „Tasso" の次の個所を指摘することによって決定された：„Und wenn der Mensch in seiner Qual verstummt, gab mir ein Gott zu sagen, was ich leide."（Buchwald）.

„Leid" が誤植ではなくて、むしろ（1836年のゲーテ没後の版に於ける）„Lied" が、Riemer の „trivialisierende Schlimmbesserung"（Weim. Ausg. Lesarten）だったということは、今までの議論からすれば、あり得ないと見なすことができる...若い頃ドラマの場面を朗読したのを思い出して（Homer の吟遊詩人の役割）、ゲーテはこの „Zueignung" の „die folgenden Gesänge"（V. 17）を、どうしても „Mein Lied" と言いたかったのかも知れない。これに反して自分の（独自の）„Leid" が鳴り響く „Faust" については、恐らく gut と言うことができなかったのだろう。（Schöne）.

巻末の „Faust" の参考文献中 „Lied" 派は：Arens, Endres, Düntzer, Gaier, Schöne, Trendelenburg, Trunz であり、他は „Leid" 派である。英訳では：„my numbers（Bruford）, my voice（Luke）, my song（Greenberg）, my

tragic song (Atkins) となっていて „Lied" 派である。Menge —— Vielheit, große Zahl. im herabsetzenden Sinne als Gegensatz zu den Gebildeten oder Bildungsbeflissenen. (Fischer).

22. Ihr —— 前行の Menge の所有代名詞。bang(e) —— niedergedrückt, gequält, unbehaglich ; im geistigen Bereich auch zur Bezeichnung der Qual des Unverstandenseins des Künstlers. (GWb). jm. bang(e) machen. 人を不安がらせる。ゲーテが不安になるのは、大衆は真に良きものを、喝采して引き立てることがないからである。1816年 6 月21日ゲーテはもっと辛辣に、Falk に対して次のように心情を吐露している。「私はこうした観客が気に入る私の作品は、何であろうとすべて腹立たしく思います。観客はその日だけのものであり、その日は観客だけのものである、ということを私は知っています。だが私は何と言ってもその日のために生きたくはないのです。」(Alt.)

23. was —— they who. sonst = formerly. (Thomas). sich an et[3]. erfreuen. erfreu(e)t (hat). 現在完了。Versmaßのため e を入れた。次行の zerstreuet も同じ。Lied = Gesang. (Fischer).

24. es —— 前行の was.

23—24. V. 19 を „was" と „es" によって、軽蔑的に非人称化して繰り返したもの。= Und diejenigen, die sonst noch an meiner Dichtung Gefallen fanden, sind entweder tot oder leben überallhin verstreut. (Arens). 英訳では：„And those to whom my song gave pleasure,／If still they live, roam scattered everywhere." (Atkins).

25. entwöhnt —— nicht mehr gewohnt, abgewöhnt. (Arens). sich eines Dinges entwöhnen. ある習慣をやめる。Sehnen —— sich nach et. sehnen. → Sehnen nach...

26. Geisterreich —— Faust 伝説の人物たち、友人や死人たちの国。従ってこの憧れは、詩人、素材、観客の観念的統一に向けられている。そして詩人は、自らの Verjüngung (V. 7) や思い出によって、更にまたこの思い出に呼び覚まされた „Wahn" (V. 4, vgl. Platon, Phaidres 244a—251b) や、Bezauberung (V. 8), それに Erschütterung (V. 7, 29f.) という詩的前提によって、この統一に近づくのである。(Gaier).

27. Es —— 形式上の主語。次行の Mein lispelnd(es) Lied が真の主語。schwebet —— schhwebt. e は Versmaß のため。

28. Mein lispelnd(es) Lied —— まだ明確な形を取ってはいない „Faust" 詩篇。(Alt). „Zueignung". (Thomas). lispeln —— Wiederholungsform des 15. Jahdts. zu älterem „lispen" = flüstern, leise tönen. (Fischer). vgl. V. 1141, 4638, 5708, 7252. (Trunz). der Äolsharfe gleich —— wie die Äolsharfe. der は3格。Äolsharfe —— 弦楽器。風が触れると、幽霊のようにかすかな、囁くような音 (unbestimmten Tönen) を響かせる —— ここでは詩人が自分に迫ってくるものによって、心を動かされる様子のこと。vgl. vor V. 4613. (Schöne).

29. Schauer —— seit dem Anhd. übtr. auf Krankheitsanfälle, wie Fieberschauer; dann auf heftige Gemütsbewegungen, auch auf Wallungen wohltuenden Gefühls, wie der Ehrfurcht. (Fischer). = Schauder. vgl. V. 472ff., 4405. (Arens). Träne —— この涙のモティーフは、内的感情を表わしているばかりでなく、この感動によって、新たな解決に至る道筋が分かることも表わしている。vgl. V. 784：„Träne quillt, die Erde hat mich wieder!" 従ってここでは、胸中深く根付いてはいたものの、意識の上では遠のいていた詩に、詩人が戻ることを表わしている。(Trunz). Träne folgt den Tränen —— der Träne の代りに den Tränen としたのは、Tönen との Versmaß のため。vgl. V. 4658. Wünsche は Wunsch の代り。(Thomas).

30. Das strenge Herz —— Das männlich feste Herz. (Fischer). 多くのことに傷ついて、鎧に身を固めた心。(Arens). es —— Das strenge Herz. weich —— biegsam, nachgiebig, sich widerstandslos anschmiegend. (Fischer).

31—32. Was ich besitze —— 詩人が „ich" と言っているのはここだけであるが、それは自我が自分の視野からどんなに遠く離れているかを、確認するためにほかならない。(Arens). 今や „Faust" を完成しようという気分を取り戻すことになる、過去のすべてに直面すると、家族や現在の友人たち、地位や身分といったものは詩人から遠ざかる。(Reclam). この Ich に吸収されて、Ich を豊かにし、高め、強固にしたものはすべて、今や突然遠くに退いたように思われる。そして消えていたものが現実になる。Faust の Helena 体験のときの、Faust の自我の衝撃と現実性の変化のことを私は考える。„Was bin ich nun?" と彼は問う。そして：„Was bleibt mir übrig, als mich selbst und alles, /Im Wahn das Meine, dir anheimzugeben?" (V. 9264, —68f.). 従って „Wird mir zu Wirklichkeiten" というのは、以下のすべてのこと、つまり詩人の空想の実現を示すものである。

(Arens). 英訳では：„What I possess seems something for away／And what had disappeared proves real." (Atkins).

32. ここは詩人の精神から殆んど消えていた人物たちが、再び生命を得て、詩人をこのドラマを完成しようという気持にしたということ。(Königs).